

# 参議院財政金融委員会會議録第十五号

平成二十八年五月二十六日(木曜日)

午前十時開会

## 委員の異動

五月二十四日

辞任

石井 正弘君

滝沢 求君

柘植 芳文君

五月二十五日

辞任

岩城 光英君

大野 泰正君

前川 清成君

中山 恭子君

補欠選任

山谷えり子君

岩城 光英君

石田 昌宏君

補欠選任

滝波 宏文君

中川 雅治君

吉川 沙織君

中野 正志君

出席者は左のとおり。

委員長 大家 敏志君  
理事 愛知 治郎君  
石田 昌宏君  
長峯 誠君  
大久保 勉君  
西田 実仁君

委員

岡田 直樹君  
伊達 忠一君  
滝波 宏文君  
中川 雅治君  
中西 健治君  
中西 祐介君  
宮沢 洋一君  
山谷えり子君  
山本 一太君

磯崎 哲史君  
尾立 源幸君  
大塚 耕平君  
白 眞敷君  
吉川 沙織君  
竹谷とし子君  
大門実紀史君  
藤巻 健史君  
中野 正志君  
平野 達男君

衆議院議員

財務金融委員長 宮下 一郎君

國務大臣 財務大臣 麻生 太郎君

事務局 常任委員会専門員 小野 伸一君

本日の會議に付した案件  
○理事補欠選任の件  
○酒税法及び酒税の保全及び酒類業組合等に関する法律の一部を改正する法律案(衆議院提出)

○委員長(大家敏志君) たいだいまから財政金融委員会を開会いたします。  
委員の異動について御報告いたします。  
昨日までに、柘植芳文君、滝沢求君、石井正弘君、中山恭子君、前川清成君及び大野泰正君が委員を辞任され、その補欠として石田昌宏君、山谷えり子君、中野正志君、吉川沙織君、中川雅治君及び滝波宏文君が選任されました。

○委員長(大家敏志君) 理事の補欠選任を行います。  
去る二十四日の本委員会におきまして、一名の

理事につきましては、後日、委員長が指名することとなっておりますので、本日、理事に石田昌宏君を指名いたします。

○委員長(大家敏志君) 酒税法及び酒税の保全及び酒類業組合等に関する法律の一部を改正する法律案を議題といたします。  
提出者衆議院財務金融委員長宮下一郎君から趣旨説明を聴取いたします。宮下一郎君。

○衆議院議員(宮下一郎君) たいだいま議題となりました法律案につきまして、提案の趣旨及び概要を御説明申し上げます。  
本案は、酒税の保全及び酒類の取引の安定を図るとともに、酒類の適正な販売管理の確保を図るため、所要の改正を行おうとするもので、以下、その主な内容につきまして御説明申し上げます。

第一に、財務大臣は、酒類に関する公正な取引につき、酒類製造業者又は酒類販売業者の適切な経営努力による事業活動を阻害して消費者の利益を損なうことのないように留意しつつ、酒類製造業者等が遵守すべき公正な取引の基準を定めるものとしております。また、その基準を遵守しない酒類製造業者等に対して、指示、公表、命令をすることができること等としております。  
第二に、公正な取引の基準の実効性を確保するため、財務大臣の質問検査権の対象に、酒類業組合等、酒類製造業者又は酒類販売業者の関係事業者を追加することとしております。

第三に、酒類製造業者又は酒類販売業者の酒類の取引に関し、公正取引委員会と財務大臣の連携強化を図るため、両者の間において双方方向の報告制度を設けることとしております。  
最後に、酒類小売業者は、酒類の販売業務に関

する法令に係る研修を受けた者のうちから酒類販売管理者を選任しなければならないこととするほか、選任した酒類販売管理者に対しては、財務省令で定める期間ごとに研修を受けさせなければならないこととしております。  
以上が本法律案の趣旨及び概要であります。何とぞ速やかに御賛同くださいますようお願い申し上げます。

○委員長(大家敏志君) 以上で趣旨説明の聴取は終わりました。  
これより質疑に入ります。別に御発言もないようですから、これより討論に入ります。  
御意見のある方は賛否を明らかにしてお述べ願います。

○尾立源幸君 民進党・新緑風会の尾立源幸でございます。  
酒税法等改正案に賛成の立場から討論を行います。

平成二十六年六月二十日に、参議院財政金融委員会及び衆議院財務金融委員会において、健全な飲酒環境の整備に関する請願が全会一致で採択されました。  
酒類は致酔性、習慣性を有し、かつ、担税物資である特殊性を有しています。酒類の過度な価格競争は、大量飲酒などの社会的問題を招きます。さらに、清涼飲料水に近い価格の酒類は、未成年者の飲酒問題につながり、治安の悪化や深刻な家庭内問題などの要因となります。やはり、特殊性を有する酒類の危険な価格競争は収束させる必要があります。

二〇〇六年八月に、国税庁は、酒類に関する公正な取引のための指針を発売し、基準に反する事業者について調査を行っています。その結果、原価割れ販売事案は過去七年間で四千件超、うち独

禁法違反であると思われる事案については公正取引委員会に報告しております。

公正取引委員会における不当廉売事案に対する注意件数は、酒類販売に対するものが最多で、全体の六割超を占めております。しかし、勧告などの行政処分までは行われていません。そのため、結果的に国税庁や公正取引委員会などの取組があるにもかかわらず、不当廉売の是正が十分に進んでいない現状があります。

今回の法案は、不当廉売をなくすために、一、きちんとした公正な取引の基準の設定、二、同基準に従わない事業者に対して指示、公表、命令、段階的是正措置、三、財務大臣の調査権限強化、四、国税庁と公正取引委員会との連携強化を行うものです。

なお、公正な取引の基準の設定に当たっては、酒類製造業者又は酒類販売業者の適切な経営努力による事業活動を阻害して消費者の利益を損なうことのないように留意することとされています。

町の酒屋さんは、単にお酒を売るだけではなく、地域に根差して人々と顔が見える関係を築くとともに、様々な地域の公益的活動に積極的に参加するなど、重要な役割を担っています。その姿は人々の暮らしに安心感を与えていますし、特にこれからの超高齢化社会において地域社会に必要不可欠なものです。また、未成年飲酒防止、飲酒運転撲滅運動などにも取り組んでくださっていることも忘れてはいけません。

本法案は、酒販制度を改善し、健全かつ適切な飲酒環境の整備に資するものであり、さらには、その結果、地域社会の再生にも役立つ法案であると考えます。

以上より、本法案に賛成します。

○委員長(大家敏志君) 他に御意見もないようです。これから、討論は終局したものと認めます。これより採決に入ります。酒税法及び酒税の保全及び酒類業組合等に関する法律の一部を改正する法律案に賛成の方の挙手を願います。

(賛成者挙手)

○委員長(大家敏志君) 全会一致と認めます。よって、本案は全会一致をもって原案どおり可決すべきものと決定いたしました。

なお、審査報告書の作成につきましては、これを委員長に御一任願いたいと存じますが、御異議ございませんか。

(異議なしと呼ぶ者あり)

○委員長(大家敏志君) 御異議ないと認め、さよう決定いたします。

午前十時七分散会

五月二十五日本委員会に左の案件が付託された。

一、酒税法及び酒税の保全及び酒類業組合等に関する法律の一部を改正する法律案(衆)

酒税法及び酒税の保全及び酒類業組合等に関する法律の一部を改正する法律案

酒税法の一部改正

第一条 酒税法(昭和二十八年法律第六号)の一部を次のように改正する。

第十条第一号中「第十二条第五号」を「第五号若しくは第六号」に、「若しくは第二号」を、「第二号若しくは第四号」に、「販売業免許を取り消されたこと」がある者」を「販売業免許を取り消され、一に、「許可を取り消されたこと」がある者」を「許可を取り消された日から三年を経過するまでの者」に改め、同条第二号中「第二号若しくは第五号」を「第二号、第五号若しくは第六号」に、「若しくは第二号」を、「第二号若しくは第四号」に改め、同条第七号中「昭和二十八年法律第七号」の下に、「第十二条第六号及び第十四条第四号において「酒類業組合法」という。」を加える。

第十二条に次の一号を加える。

六 酒類業組合法第八十四条第二項(酒税保全のための勧告又は命令)又は第八十六条の四(公正な取引の基準に関する命令)の規定による命令に違反した場合

第十四条に次の一号を加える。

四 酒類業組合法第八十四条第三項(酒税保全のための勧告又は命令)又は第八十六条の四(公正な取引の基準に関する命令)の規定による命令に違反した場合

(酒税の保全及び酒類業組合等に関する法律の一部改正)

第二条 酒税の保全及び酒類業組合等に関する法律(昭和二十八年法律第七号)の一部を次のように改正する。

第八十六条の二及び第八十六条の三を削り、第八十六条の四を第八十六条の二とし、同条の次に次の二条を加える。

(公正な取引の基準)

第八十六条の三 財務大臣は、酒税の保全及び酒類の取引の円滑な運行を図るため、酒類に関する公正な取引につき、酒類製造業者又は酒類販売業者が遵守すべき必要な基準(以下「公正な取引の基準」という。)を定めるものとする。

2 財務大臣は、公正な取引の基準を定めるに当たっては、酒類製造業者又は酒類販売業者の適切な経営努力による事業活動を阻害して消費者の利益を損なうことのないように留意しなければならない。

3 財務大臣は、第一項の規定により公正な取引の基準を定めたときは、遅滞なく、これを告示しなければならない。

4 財務大臣は、公正な取引の基準を遵守しない酒類製造業者又は酒類販売業者があるときは、その者に対し、当該公正な取引の基準を遵守すべき旨の指示をすることができる。

5 財務大臣は、前項の指示に従わない酒類製造業者又は酒類販売業者があるときは、その旨を公表することができる。

6 財務大臣は、おおむね五年ごとに公正な取引の基準に再検討を加え、必要があると認めるときは、これを改正するものとする。この場合においては、第二項及び第三項の規定を準用する。

(公正な取引の基準に関する命令)

第八十六条の四 財務大臣は、前条第四項の指示を受けた者がその指示に従わなかった場合において、酒税の円滑かつ適正な転嫁が阻害され、又は阻害されるおそれがあると認めるときは、その者に対し、当該指示に係る公正な取引の基準を遵守すべきことを命令することができる。

第八十六条の八中「財務大臣は」の下に、「第八十六条の三第一項の規定により公正な取引の基準を定めようとするとき(同条第六項の規定により公正な取引の基準を改正しようとするときを含む。)」を加え、「又はを」又はに改める。

第八十六条の九第一項中「従事する者」の下に「であつて、酒類の販売業務に関する法令(酒税法、この法律、未成年者飲酒禁止法(大正十一年法律第二十号)、私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律(昭和二十二年法律第五十四号)、第九十三条において「私的独占禁止法」という。)、アルコール健康障害対策基本法(平成二十五年法律第九号)その他の財務省令で定める法令をいう。以下この条において同じ。)」に係る研修(小売酒販組合、小売酒販組合連合会又は小売酒販組合中央会その他の法人その他の団体であつて、財務大臣が、財務省令で定めるところにより、酒類の販売業務に関する法令の知識が十分であり、かつ、当該研修を適正かつ確実に行うことができる)と認め指定したものが行うものをいう。第六項及び第九項において単に「酒類の販売業務に関する法令に係る研修」という。を受けたものを加え、同条第五項を削り、同条第六項を同条第五項とし、同条に次の四項を加える。

6 酒類小売業者は、第一項の規定により選任した酒類販売管理者に、財務省令で定める期間ごとに、酒類の販売業務に関する法令に係る研修を受けさせなければならない。

7 財務大臣は、酒類小売業者が前項の規定を遵守していないと認めるときは、その者に対し、期限を定めて、必要な措置をとるべきことを勧告することができる。

8 財務大臣は、前項の規定による勧告を受けた者がその勧告に従わないときは、その者に対し、期限を定めて、その勧告に係る措置をとるべきことを命令することができる。

9 酒類小売業者は、財務省令で定めるところにより、その販売場ごとに、公衆の見やすい場所に、酒類販売管理者の氏名及び当該酒類販売管理者が最後に酒類の販売業務に関する法令に係る研修を受けた日その他の財務省令で定める事項を記載した標識を掲げなければならない。

第九十一条第一項中「酒類販売業者」の下に「若しくはこれらの者とその事業に関して関係のある事業者」を加える。

第九十二条中「私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律(昭和二十二年法律第五十四号)」を「私的独占禁止法」に改める。

第九十四条第一項中「又は第八十四条第一項」を「第八十四条第一項」に改め、「命令」の下に「又は第八十六条の三第一項の規定による公正な取引の基準の制定(同条第六項の規定による公正な取引の基準の改正を含む。)」を加え、同条に次の二項を加える。

3 公正取引委員会は、酒類製造業者又は酒類販売業者の酒類の取引に関し、公正な取引の基準に違反する事実があると思料するときは、財務大臣に対し、その事実を報告するものとする。

4 財務大臣は、酒類製造業者又は酒類販売業者の酒類の取引に関し、公正な取引方法に該当する事実があると思料するときは、公正

取引委員会に対し、その事実を報告するものとする。

第九十八条第一号を同条第一号の二とし、同条に第一号として次の一号を加える。

一 第八十六条の四の規定による命令に違反した者

第九十八条第二号の二の次に次の一号を加える。

二の三 第八十六条の九第八項の規定による命令に違反した者

附則  
(施行期日)  
第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。ただし、次条の規定は、公布の日から施行する。

第二条 財務大臣は、この法律の施行前においても、第二条の規定による改正後の酒税の保全及び酒類業組合等に関する法律(以下「新酒類業組合法」という。)(第八十六条の三第一項及び第二項、第八十六条の八並びに第九十四条第一項の規定の例により、新酒類業組合法第八十六条の三第一項に規定する公正な取引の基準を定めることができる。

2 前項の規定により定められた公正な取引の基準は、この法律の施行の日(以下「施行日」という。)(において新酒類業組合法第八十六条の三第一項の規定により定められたものとみなす。

第三条 この法律の施行の際現に第一条の規定による改正前の酒税法第七條第一項、第八條又は第九條第一項の免許を受けている者(次項において「酒類製造業者等」という。)(に対する第一条の規定による改正後の酒税法(次項において「新酒税法」という。)(第十二條、第十三條又は第十四條の規定による免許の取消しに関しは、この法律の施行前に生じた事由については、なお従前の例による。

2 施行日前に酒類製造業者等について相続(包括遺贈を含む。)(があつた場合における当該相続に係る相続人(包括受遺者を含む。)(に対する新酒税法第十九條第二項の規定の適用については、なお従前の例による。

(酒類の販売業務に関する法令に係る研修に係る経過措置)  
第四条 この法律の施行前に実施された第二条の規定による改正前の酒税の保全及び酒類業組合等に関する法律(以下「旧酒類業組合法」という。)(第八十六条の九第五項に規定する酒類の販売業務に関する法令に係る研修は、この法律の施行後は、新酒類業組合法第八十六条の九第一項に規定する酒類の販売業務に関する法令に係る研修とみなす。

(酒類販売管理者の選任等に係る経過措置)  
第五条 この法律の施行の際現に旧酒類業組合法第八十六条の九第四項の規定により酒類小売業者同条第一項に規定する酒類小売業者をいう。以下この条において同じ。)(が財務大臣に届け出ている酒類販売管理者は、新酒類業組合法第八十六条の九第一項の規定による酒類販売管理者として選任されたものとみなす。

2 前項の場合において、同項に規定する酒類販売管理者がこの法律の施行前に旧酒類業組合法第八十六条の九第五項に規定する酒類の販売業務に関する法令に係る研修を受けていないときは、酒類小売業者は、当該酒類販売管理者に、施行日から三月以内に、新酒類業組合法第八十六条の九第一項に規定する酒類の販売業務に関する法令に係る研修を受けなければならない。

3 財務大臣は、酒類小売業者が前項の規定を遵守していないと認めるときは、その者に対し、期限を定めて、必要な措置をとるべきことを勧告することができる。

4 財務大臣は、前項の規定による勧告を受けた者がその勧告に従わないときは、その者に対し、期限を定めて、その勧告に係る措置をとるべきことを命令することができる。

5 前項の規定による命令に違反した者は、五十万円以下の罰金に処する。

6 法人の代表者又は法人若しくは人の代理人、使用人その他の従業者が、その法人又は人の業務に関し、前項の違反行為をしたときは、その行為者を罰するほか、その法人又は人に対し、同項の刑を科する。

7 第二項に規定する酒類小売業者に対する新酒類業組合法第八十六条の九第九項の規定の適用については、施行日から第二項に規定する酒類販売管理者が同条第一項に規定する酒類の販売業務に関する法令に係る研修を受けた日までの間は、同条第九項中「酒類販売管理者の氏名及び当該酒類販売管理者が最後に酒類の販売業務に関する法令に係る研修を受けた日」とあるのは、「酒類販売管理者の氏名」とする。

(質問検査権に係る経過措置)  
第六条 新酒類業組合法第九十一条第一項の規定は、施行日以後に行う同項の規定による検査等(報告の求め、質問、立入り又は検査をいう。)(以下この条において同じ。)(について適用する。ただし、関係事業者(同項に規定する酒類業組合等、酒類製造業者又は酒類販売業者)とその事業に関して関係のある事業者をいう。)(に対しては、同項の規定にかかわらず、施行日前に酒類製造業者等(旧酒類業組合法第九十一条第一項に規定する酒類業組合等、酒類製造業者又は酒類販売業者をいう。)(に対して行つた旧酒類業組合法第九十一条第一項の規定による検査等及び当該検査等に関連して施行日以後に当該酒類製造業者等に対して行う新酒類業組合法第九十一条第一項の規定による検査等に関連する検査等は、行うことができる。

(アルコール事業法の一部改正)  
第七条 アルコール事業法(平成十二年法律第三十六号)の一部を次のように改正する。

第五條第二号中同法第十二條第五号を「第五号若しくは第六号」に、「若しくは第二号の」

を「第二号若しくは第四号の」に改める。

(省令への委任)

第八条 この附則に定めるもののほか、この法律の施行に伴い必要な経過措置は、財務省令又は経済産業省令で定める。